



久良岐能舞台のルーツはお囃子（音楽）から始まり数多くの人間国宝が生まれてきました。そこで、もう一度音楽から始めよう～という思いで、KURAKIと言うユニット名を立ち上げました。



松尾 慧 Matsuo Kei 横笛

日本の伝統的横笛（篠笛、能管、龍笛、神楽笛など）を演奏、現代邦楽の合奏や、雅楽、民俗芸能の演奏の他、ソロ、様々なアンサンブルの形で活動している。箏、三絃、琵琶などの邦楽器とのアンサンブルにとどまらず、多様な洋楽器、民族楽器とのセッション、舞踊とのコラボレーションにも取り組んでいる。能管を能楽森田流松田弘之氏に、龍笛、高麗笛、神楽笛を伶楽舎宮丸直子氏に師事。篠笛は、仲林光子氏に手ほどきを受け、竹井誠、鯉沼廣行、村山二朗各氏に、古典、現代曲、民俗芸能の笛を学ぶ。



クリストファー・ハーディ Christopher Hardy パーカッション

アメリカ出身。西洋打楽器の基礎を持ちつつ、中近東、北アフリカ、西アフリカやラテンの代表的打楽器であるハンドドラムのスペシャリストとして高い評価を得ている。独自の打の創造に満ちたアプローチを織りし、これまで STING、吉井和也、Ai、UA、渡辺香津美、山下洋輔、林英哲、加藤和彦、などと共に演。ビクターよりリリースされたソロ CD・DVD「タッチ」をリリース、月刊ステレオ誌発表により最優秀録音賞第1位となり同時にアメリカ発売。洗足学園大学教授。シルク・ドゥ・ソレイユ「ZED」のミュージシャンとしてステージに参加。創意的なサウンドを展開している。



おおたか静流 Sizzle Ohtaka シンガー&ヴォイスアーティスト

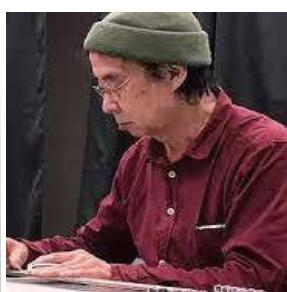
七色の声を駆使し、あらゆるアートと交差しながら、無国籍ノンジャンルの道を行く。

国内外で、声と光をテーマに“Light & Shadow”と名付けた作品を発信している。

『声のお絵描き教室』主宰、声のバリアフリーと可能性を追求する。

NHK E テレ「にほんごであそば」にレギュラー出演中。

Photo 小沢芳彦



駒沢 裕城 Komazawa Hiroki ペダル・スティール・ギター

東京生まれ。小坂忠のバック・バンド、フォー・ジョー・ハーフを経て、はちみつぱいに加入する。

その後は、日本を代表するペダル・スティール・ギター奏者として、細野晴臣、矢野顕子、大滝詠一、はっぴいえんど、あがた森魚などの数多くのレコーディング・セッションに参加している。



八尋 洋一 Yahiro Yo-ichi ベース

1982年 オルガン奏者ワルター・ワンダレ-のサポートメンバーとして活動開始。

1983年 吉田和雄率いるスピック & スパンのメンバーとなる。

以降国内ライブシーンで活動中。



《ゲスト》 森 弘一郎 Mori Koichirou パフォーミングアーティスト

日本のダンスシーンを経て渡米。

その後、舞台芸術の世界を知り、北欧デンマークを中心にヨーロッパの国々へと活動の場を広げる。ダンスの枠を越え芸術的表現者として舞台芸術の道へ。

劇場公演「くるみ割り人形 HIPHOP バージョン」をはじめ数々の舞台でデンマーク国内最高評価六つ星を取得。同作品ではデンマーク最高峰の劇場アワード (Reumert Award)において、「Reumert賞」「Copenhagen賞」「Danish hiphop 賞」の3部門を受賞。また、「Danish Culture Canon」を受賞。その芸術性の高さを認められ、デンマーク女王も賛辞をおくられた。